

千葉県匝瑳市（国内 49 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 3 年 2 月 11 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、46 例目の農場（令和 3 年 2 月 8 日発生）の系列農場であり、約 1.3km 離れた平野部に位置し、付近は水田に囲まれている。
- ② 当該農場には、金網式の床で仕切られた 2 階建て構造のウィンドレス鶏舎が 5 棟あり、発生鶏舎は農場入口側に位置する棟の 1 階部分の鶏舎であった。発生時には、すべての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 42 例目の発生に伴い実施した発生状況確認検査において、陰性が確認されていた。
- ② 飼養管理者によると、過去 10 日間の発生鶏舎の 1 日あたりの死亡鶏は 15~20 羽で推移していたとのこと。
- ③ 2 月 8 日に、発生鶏舎で 30 羽の死亡が確認されたが、死亡鶏は散在しており、前日の死亡羽数が 9 羽と少なかったことから、健康観察時の死亡鶏の見落としを疑い、家畜保健衛生所への通報には至らなかったとのこと。
- ④ 2 月 10 日に、発生鶏舎で 35 羽の死亡鶏が確認され、このうち 1 階入口に最も近い列の入口側から 4 番目のケージで 4 羽がまとまって死亡しており、その背面のケージ及び同列の複数ケージにおいても衰弱、死亡鶏が確認されたことから、通報したとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では専属の従業員 11 名のうち 5 名が鶏舎管理を担当していた。飼養管理者によると、毎日鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏の回収を行っていたとのこと。
- ② 鶏舎管理を担当する 5 名については、基本的には鶏舎ごとに担当者は決まっていたが、休みの日等は担当でない他の鶏舎に入ることがあったとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、従業員は農場の事務所兼更衣室で農場専用の作業着、長靴、手袋を着用していた。各鶏舎に入る際、鶏舎専用の長靴に交換し、手袋を脱いで、手指消毒を実施していたが、手袋の交換は行っていなかったとのこと。
- ② 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低い状況であった。
- ③ 飼養管理者によると、発生鶏舎の飼養鶏への給与水は井戸水を利用しており、塩素消毒を実施していたとのこと。
- ④ 発生鶏舎からの鶏糞は、除糞ベルト及びベルトコンベアで農場敷地内にある堆肥場に搬出していた。堆肥場には、防鳥ネット等は設置されていなかった。飼養管理者によると、当該堆肥場は当該農場と系列農場で共用しており、堆積した鶏糞は堆肥化処理を行った後に、46 例目の農場に隣接する堆肥場に運搬していたとのこと。なお、堆肥場に入出入りする際、動力噴霧器による車両消毒を行っていたとのこと。
- ⑤ 飼養管理者によると、死亡鶏は農場敷地内の焼却炉で処理していたとのこと。
- ⑥ 飼養管理者によると、オールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後は鶏舎内の清掃・消毒を行っていたとのこと。
- ⑦ 飼養管理者によると、農場敷地内に、定期的に石灰粒を散布していたとのこと。
- ⑧ 飼養管理者によると、車両が農場敷地内に入出入りする際、入口に設置された動力噴

霧器で消毒を行っていたとのこと。

- ⑨ 発生鶏舎であるウィンドレス鶏舎の構造は、鶏舎入口側の壁面及び鶏舎側面上部から給気し、鶏舎奥側の壁面に設置された換気扇から排気するタイプの鶏舎であった。給気口には金網（マス目は約 2.0×2.0cm）が設置され、排気用の換気扇の外側には開閉可能な板が設置されていた。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場内ではネコ、カラス、スズメを見かけることがあるとのこと。
- ② 飼養管理者によると、鶏舎内でネズミを見かけることがあり、定期的にネズミ対策（自主及び業者施工による殺鼠剤及び粘着シートの設置）を行っているとのこと。調査時にも、発生鶏舎内でネズミ及びネズミのものと思われる糞を複数確認した。
- ③ 発生鶏舎側面の壁面には、小型の野生動物が侵入可能な隙間があり、調査時に、ネズミがその隙間を通じて、鶏舎外に移動しているところを確認した。
- ④ 飼養管理者によると、鶏糞を搬出するベルトコンベアの発生鶏舎側の開口部は、運転時以外は板で閉じられているとのこと。
- ⑤ 発生鶏舎では、鶏舎から集卵用のバーコンベアが外へ出る開口部に隙間があり、小型の野生動物が侵入可能と考えられた。